

『全ては神様のお恵み
〜みこころの聖母会
十周年に寄せて〜』

みこころの聖母会 Sr. 高良 弘美

月日が経つのは早いもので、今年の十二月には私たち、聖心の聖母会が来日して十年目を迎えることになりました。この機会に聖心の聖母会を紹介したいと思います。

皆さまもご存知のように聖心布教会はジュール・シュヴァリエ神父によって、一八五四年フランスのイスダンで創立されました。その二十年后に聖心布教会の姉妹修道会として聖心の聖母会が創立されたのです。

創立者ジュール・シュヴァリエ神父は慈愛の精神にあふれた方で、常に見捨てられた人や、あらゆる状態で圧迫された人たちを見て、心を動かされた。当時の社会の「邪悪、不信仰、不道徳」という問題を見て、その状態に置かれていた人たちのことを思い、イエスの聖心への信心こそ改心に導くものだと信じたのです。彼にとつて聖心は溢れるほどの神の愛を人間的に示す印だと確信していました。そしてこの信仰こそ色々な困難に苦しんでいる人々を救うことが出

来る信心だと確信し、全世界に慈しみと愛に満ちたイエスの聖心を宣べ伝えることを目的としてこの二つの修道会を創立したのです。

「イエスの聖心が世界の至るところで愛されますように」というモットーのもとに、わたしたちは、良い牧者であるキリストに倣い、聖母マリアと共に慈しみ深い神の愛を伝えるようにと呼ばれているのです。

わたしたちの修道会の会員は現在千三百五十人で、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニアなど全世界の二十八カ国で教育、看護、医療と福祉の活動など地域教会のニーズに応じて奉仕しています。

「イエスの聖心が世界の至るところで愛されますように」のモットーに込めると同時に五十年前から日本で活動している聖心布教会の神父様方と共に働くために招かれて一九九五年十二月七日に来日し、翌日の十二月八日、無原罪の聖マリアの祝日を設立記念日として名古屋で第一歩を踏み出しました。そして一九九九年には神戸市に、二〇〇三年には福井市へと活動を広げました。

現在、オーストラリア、インドネシア、ブラジル、フィリッピン管区から派遣されたシスター達が、この日本で出会い、文化、習慣、食事、言葉などの違いを越えて国際共同体として生活しています。

名古屋での私たちの活動は城北教会での司牧活動、名古屋教区の外国人司牧（ブラジル人カトリック共同体、フィリッピン共同体、インドネシア共同体など）難民移住移動委員会・共の会で外国人のためのボランティア活動をしていきます。またみこころセンターで英語教室も開いております。今年から教区センターでも仕事をすることになり、また名古屋教区の青年委員会のリーダーの一人として参加しています。短い間でしたが、聖力ピタニオ女子高等学校でも英会話を教えていました。

神戸市ではマリスト国際学校で五年間勤めました。四年間は校長として、色々な国、文化、宗教の異なった生徒たちに平和に満ちた楽しい環境で、理解し尊敬し合うことを学ぶ場を作ることにかけてきました。

福井の共同体はインドネシア人とフィリッピン人の二人のシスターが小教区の一員として、祈りの

グループや、聖書の分かち合い、病人訪問、婦人部の活動にも参加しています。

来日十年を迎えるに当たり、聖心布教会の神父様、ノートルダム教育修道女会のシスター方、城北橋教会の信徒の皆様、また友人の皆様へ今まで支えてくださったことを深く感謝いたします。皆様一人ひとりのお祈りと励ましを通して、神様から大きなお恵みを頂いたと思います。今年には日本ではじめての実りであるSr. クララ林明恵の初誓願、そして最初のメンバーとして来日したこの十年を共に過ごしてきたSr. メーリの総長選出という大きな喜びが重なった年となりました。本当に神に感謝の一言です。

私たちの創立者であるシュヴァリエ神父はいつも「イエスの聖心の内に信徒の皆さんと一つの家族になつて奉仕するように」とつねづね言っておりました。皆様と共に「イエスの聖心が、世界の至るところで愛されますように」と喜びの福音をのべ伝えましょう。

これからも歩み続ける私たちに、これまでと同じように皆様のお祈りとご支援をお願い致します。